

## 令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：旭川地区
- 2 事例報告学校名：旭川市立旭川小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 佐藤栄一
- 4 キーワード：小中連携・一貫教育の推進

### 1 はじめに

本校は、旭川市の東部地区に位置し、明治25年に屯田兵の入植により「旭川兵村」が開村し、同年設置の旭川西尋常小学校がルーツの開校131年目の学校である。

平成30年12月、旭川小学校の新校舎が落成し、旭川中学校と施設一体型校舎での小中連携・一貫教育がスタートした。



### 2 準備期（平成27年度～平成30年11月）

「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」で示された考え方、「子ども一人一人の学力や人間形成を図ることを目的として、9年間を見通した系統的な教育活動や小学校から中学校への円滑な接続を目指す教育」を土台に、旭川小学校・旭川中学校では、「組織の基本的な枠組みは残したまま、『9年間で目指す子ども像』を設定し、9年間の系統性を生かした教育活動の推進を目指す教育」に向けて、次のような準備を進めてきた。

- 小中合同研修会（キャリア教育）
- 乗り入れ授業（理科、英語、音楽、書写）
- 合同検定会（漢検、英検、算数・数学）
- 授業参観日の交流 ○児童生徒の交流活動
- 小中連携に関わる各種会議  
(PTA、管理職、コーディネーター、分掌代表等)
- 教育課程（一部）の接続の試行
- 小中連携イメージキャラクターの作成 ⇒
- 学校評議員会の一本化  
(あさひやま学校運営協議会)
- 小学校保護者への高校説明会の案内配付
- 小学校保護者への中学校PTA行事の案内配付
- 小中教職員意識調査の実施 など



### 3 推進期（平成30年12月～令和元年度）

校舎移転後、令和元年度4月（平成31年4月）からは、学校経営の根幹となる「9年間で目指す子どもの姿（育成を目指す資質・能力）」を小学校・中学校で統一するとともに、新たに中1ギャップの解消と小中共通の学校課題への対応の2つを視点として、教育活動のつながりや一貫性を強めてきた。

中1ギャップの解消では、学習に対する不安、生活に対する不安、人間関係に対する不安の3点に視点を当てて、取組を進めた。小中共通の学校課題への対応では、効果的な学力向上と主体的で成長意欲にあふれた児童生徒の育成を目指し、取組を進めた。

旭川小学校・旭川中学校 目指す子どもの姿			
教育目標	小学校	中学校	高等学校
筋道をたてて考え 自分で判断できる 子でも	強いて思ふと奥へ 深からざなを待つ子 ども	常にからだをきた える たくましい 子ども	みんなで手をつな ぎ未来を築く子 ども
確かな学力 自ら進んで学ぶ 子	豊かな心地 感やかな体 夢・自己有用感	健やかな体 自らと体を鍛 える子	目標や希望をも って取り組む子
低学年 中学年 高学年	めでてを理解し自 ら問題を解決す る子	あいさつができる子 だらうと仲良しくし うとする子	自らのよろこびを 喜びを守り安全に生 活しようとする子
	課題を見付け出し て考え方を解き うとする子	あいさつができる子 だらうと仲良しくし うとする子	自分性伸長を図り自 ら運動し健康・安 全にすごそうとする 子
	自ら課題をもち出 すとともに多面的 に考え方を進めよう とする子	時と場に応じた扶 持がでかいを思 いやり活きい行動 をしようとする子	自分をより目標に 向かい見直しをも って努力しようと する子
中学校	何事にも主体的 ・全般的に扱うため の生きかたをもつ 生徒	広い視野に立ち他 者を思いやりなが ら行動できる心豊 かな生徒	夢や希望の実現に 向けよう生き方を 目指す生徒

施設一体型校舎での小中連携・一貫教育においては、教育活動のつながりや一貫性の充実に加え、管理運営面の連絡調整も重要である。例えば、施設・設備の管理で共通する部分や別々の部分、分担する部分などの確認、共有で使用する部分についてのルールや割当など、多岐にわたる。そのため、校長、教頭、主幹教諭（小中連携コーディネーター）、各分掌の代表者は日頃から緊密に連携している。小中の全職員で組織する小中連携委員会では、年4回の定例会議を実施し、年度の重点的な取組について、計画、実践、評価、改善に努めている。

○ 中1ギャップの解消 学習に対する不安の解消

・小6児童アンケート  
勉強に対する不安 53.7%

・50分授業 学習の仕事の変化  
定期テスト 数科担任制

・中学生による小学校長期休業中の学習サポートボランティア  
・各種検定の合同実施  
・相互通り入れ規範の実施(書写・理科)  
・中学校「学びの手引き」の6年生への配付  
・新入生説明会(授業体験)  
・小6・中1の使用ノートの共通化(U群 8mm判縫入)

○ 中1ギャップの解消 生活に対する不安の解消

・小6児童と中学生による児童生徒交流会  
・よくわかる「旭川小学校・旭川中学校」の作成と配付

・小中昼休み交流(令和元年度 10月～12月 月1回)  
・生徒会による、小6児童対象としたいじめノックアウトキャンペーン(道徳授業の実施)  
・児童会・生徒会合同挨拶運動の実施

### 4 コロナ禍（令和2年度～）

令和元年度末から新型コロナウイルス感染症の拡大により、児童生徒の積極的な交流が難しくなるとともに、感染症防止対策の徹底と学びの保障の両立が最重要課題となった。

○ 「9年間で目指す子どもの姿」の実現を目指す授業改善

授業改善研修を通して、目標とする生徒像に基づく児童生徒の成果と課題の共有

小中各教科の全体計画(国・社・数・理・英・体)に基づく、9年間の学習内容の系統化と授業改善

目標とする生徒像を踏まえた「学びのスタンダード」の内容の再検討

全国学力・学習状況調査の結果交流による、小中共通の学力課題の明確化

★研修の充実  
・小中合同研修の実施や、学力向上についての小中教員による意見交換(ワークショップ)により授業改善の方向性の共有化を図る。  
・小6・中1の授業改善による中1ギャップの解消を図る。

日常的な交流

○ 「9年間で目指す子どもの姿」の実現を目指す生徒指導

小6～中3まで継続した3者懇談の実施(学年によって任意)  
⇒児童生徒の意見を土台にした想談の実施により、より深い児童生徒理解が図られる。  
⇒3者で目標を共有することにより、児童生徒の安心感に繋がる。

9年間を見越した、発達段階に応じた生活のまわりの作成

いじめノックアウト調査や児童生徒交流会の実施による一貫した児童生徒理解

小中一貫した特別支援教育の推進

★生徒指導に関する諸課題の共有  
・いじめや不登校など小中でそれわれに抱える生徒指導の課題を共有し、その解決策について学び合う場の設定。

日常的な交流

小中連携・一貫教育の要である教育活動のつながりに大きな制限が加わることによって、取組の停滞が見られたことは否めない。そのため、このような状況下でも持続可能なものとして、授業改善（研修の充実）と、一貫した生徒指導の2つに絞って、日常的な取組の充実に努めた。

### 5 おわりに

制限の多い日常ではあるが、今後も子どもたちの未来のために、9年間の学びの連続性を重視した教育活動の工夫改善と学校運営の充実に取り組んでいきたい。

◆小中各教科の全体計画(画像は理科)

旭川中学校・旭川小学校 理科全体計画

旭川中学校・旭川小学校 全体計画